

自分らしい生き方、応援します！

ソーレ・スコープ

第79号
2017.
JANUARY



DV防止啓発講演会

「絶望から生きる～歌人鳥居さんが暴力について語る～」

特集 「女性議員をふやすために、今できること」

暮らしにひとさじエッセンス「南国 FOOD PLUS」

イラスト：ヒビノケイコさん
(4コママンガエッセイスト)

D V 防止啓発講演会

2016年11月5日(土) 13:30～15:00

「絶望から生きる」

～歌人鳥居さんが暴力について語る～

講師 鳥居さん(歌人)



両親の離婚、母親の自殺、児童養護施設での虐待、そしてホームレス生活などを体験し、非常に過酷な子ども時代を過ごしてきた鳥居さん。その中でも独学で文字と短歌を学び、2012年には全国短歌大会で入選。「生きづらいなら短歌をよもう」と呼びかけるとともに、誰もが義務教育を受けられる社会にするための活動をされている鳥居さんにお話を伺いました。

短歌との出会い

鳥居という名でセーラー服を着て、短歌をつくり始めて4～5年くらいになります。小学校の途中から学校に行っていないので、短歌を習ってなかったんですが、偶然図書館で歌集を見つけて。ごく短い言葉で思いや風景を表現する短歌に魅了されて、好きになりました。

短歌をつくるときは、どちらかという苦しいことが多くて。今でも自分がつくったものを人に見せたいとは思わず、自分の歌を人に見せるのは、何か怖じ気づいて怖かったりします。

セーラー服を着て活動することに込められた想い

戦争中だったとか、私がそうですけど虐待で監禁されていたとか、いろんな理由で学校に行けなかった人がいます。でも、そうした人って、書類上、形だけは卒業したことになるんです。

でも学校へ行っていないと、読み書きができないから、すごく困るわけです。母国語なのに、何も分からない。駅で駅名

を見ても読めないとか、書類なんかに自分の名前も書けないとか。読み書きだけじゃないんです。居酒屋へ行って割り勘ってなったときに、いくら払ったらいいか分からない。スーパーで3割引と書いてあっても、それは安くなったのか高くなったのか、よく分かんないとか。地図とか、東って何ですか、どっちですか、東西南北って何ですか。もうありとあらゆるものが困ります。

これだけは知っておいたほうがいいよっていうことがすっぽり抜けているのです。でも書類上は卒業扱いの人が、勉強をやり直したいと言っても、あなたは卒業したことになっているからと門前払い。私も同じでした。

そのとき、この問題が70年も解決されていないことを知って長いなと思ったんです。それからは、政治家や専門家の方の会議へ意見を提出したりとか、いろいろな活動をしています。その中で、学ばないまま大人になった人の代表というかシンボルマークになって目立つことによって、こんな社会問題が世の中にあるということを知ってもらいたい、そういう思いでセーラー服を着ています。

鳥居さんが考える暴力

今まで自分の生い立ちについて話す機会がたくさんあって。そんなに不幸な、壮絶な人生の人がいるのね、大変ね、偉いね、つらかったね、頑張ってるって言ってもらって、ありがたかったんですけど。自分が不幸だと思っていないけど、波瀾万丈な、何かつらい経験した人がいるよというだけなら、ほかにもいっぱいいるわけです。私は児童養護施設で育ったり、DVシェルターにいたり、ホームレスになったりしたので、自分と同じような境遇、あるいは自分よりずっとずっとひどい、つらい境遇の人にたくさん会ってきました。

そういういろんな人がいるよってことは伝えられるんですけど、私が体験してきたこと以外に話せることがほかにはないかなと。「言葉と暴力」について考えてきたんです。

そんな時、不登校の子が集まっているフリースクールで「言葉には力が宿るんだよ。人を生かすことも殺すこともあるんだよ」と話したら、「魔法使いが呪文を唱えるわけじゃあるまいし、人を殺すことなんてできるの」って、すごく無垢な目で聞かれたんです。それを見て、私は良かったと思ったんです。この子たちは戦争を知らない。戦意高揚のためにつくられた詩を知らない。「潔く散れ」っていう、そんな言葉で死んでいった、同世代の若者がいることを知らない。平和に生まれて、平和に育ったんだと。

私は戦前・戦中・戦後の時代にとっても共感するんです。それは、私が死と隣り合わせの生活を送ってきたからかもしれないし、ずっと信じていたものが崩れることを経験したからかもしれないし、ふるさとを失うとか、寝る場所がないとか、食べ物がないとか、草でも何でも食べるみたいなことを経験しているからかもしれないんですけど。その時代の人の手記を読んだり、短歌を読んだり、俳句を読んだりすると、何かすごく胸に刺さるというか、共感するんですよ。

私は歌人なので、自分が加害者になる危険性を考えないといけないと思うんです。もし戦時中だったら、私はどんな歌をつくったんだろう、あるいは何もつくらなかったんだろうか。その時代に生きてたら私ってどうしてたのかなって。あ

るいは、また同じような時代が来たときに私はどうするんだろうって考えて、すごく心がかきむしられるというか、苦しくなったりします。

今取り組んでいる活動とこれから

不登校の子どもたちを対象にした子ども短歌講座や「生きづら短歌会」をしているんですが、そこには名前のとおり、障がいのある方とかニートとかひきこもりの人たち、生きづらい人が集まります。

家出てきたとか、ホームレスだとか、何かわけがあって夜逃げしてきたとかいう人でも来られるように、セーフティネットというとかっこ良すぎるかもしれないですけど、参加費はできるだけ取らないようにして誰でも参加できる場所になっています。

その中で、私は先生というような立場ではなくて。好きな漫画や音楽を友だちに薦めたりするように「私はこの短歌が好きなんだけど、ちょっと読んでみない」って、漫画の貸し借りをするような感じで、短歌をお薦めし合ったりしています。

あと短歌って日本でしか通用しないんじゃないのって言われるんですけど、意外とそうでもないんです。この間台湾に行ったら、日本語で短歌をつくっていて、日本よりも盛況なんじゃないかと思うくらいに熱心な短歌会がありました。今後は、短歌という表現が世界中で愛されているんだということを見に行きたいと思っています。



全日本おばちゃん党谷口真由美さんに聞く

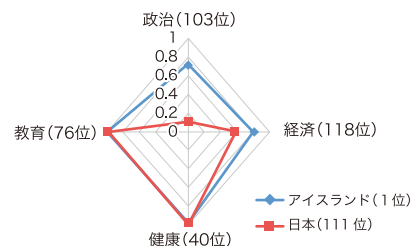
「女性議員をふやすために、今できること」

女性と男性の格差を示すジェンダーギャップ指数（GGI）。2016年10月に発表されたGGIは0.66となり調査対象144カ国中111位と、昨年度の145カ国中101位から順位を10下げて過去最低の結果となりました。

経済、教育、政治、健康の4分野で女性の地位を分析するこの指数。値が1に近づくほど男女間の格差がないことを示しますが、政治分野は0.103と、他の分野の指数と比較しても特に男女間の格差が大きいがうかがえます。

戦後初の衆議院選挙が実施され、日本で初めて女性議員が誕生してから今年で70年。にも関わらず、女性衆議院議員の割合は当時の11.9%とあまり変化はなく10.5%（平成26年12月現在）です。

ジェンダーギャップ指数(2016)
各分野の日本の順位と1位のアイスランドとの比較
(対象144カ国)



世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2016」より作成



この変化が見られない状況は何なのか？男性中心の「オッサン」政治に「おばちゃん」目線で突っ込みを入れる全日本おばちゃん党代表代行の谷口真由美さんにお話を伺いました。

一なぜ政治の世界に女性はふえないんでしょう。

日本で初めて男女平等が書かれた日本国憲法ができて70年。しかし、相変わらず意識の中では、なんだかんだ言って、女性も男性も、男性が優位だと思っているんじゃないでしょうか。

男性は、自分たちに抵抗しない、プライドを傷つけない女性のことは受け入れる。でも、女性というだけで男性とは異なる取り扱いを受け、憲法に書かれた男女平等に近づこうと頑張っている女性に対しては、引っ張っているタイヤの上に乗って重しになってみたり、逆に引っ張ってみたり。頑張る女性がいる一方で「私は女性として幸せだから、頑張りがたくない」と何もしない女性もいて、さまざまな形で頑張る女性の足を引っ張っている。

これだけ女性の政治参画が進まないのは、今の「オッサン」を育てた母親も、「オッサン」をそのままにしている妻も娘も含めて、全て女性に関係しているところがあるんじゃないかなと感じています。

全日本おばちゃん党 政党ではなく、さまざまな年齢や立場の女性が今の政治や社会のおかしいところを語り合うFacebook上のグループ名

一夫が家事をしていたら「申し訳ない」と感じてしまうようなことですか。

そうですね。女の子に、そういう罪悪感を植え付けずに育てることが大事です。それは家庭だけではなくて、教育現場や近所のおばちゃんもそうです。女の子が家事育児や介護を中心的にやらないといけないという義務感から解放されない限り、本当の意味で女性が輝く社会はないと思うんです。

そして男の子にも食べることぐらい自分でできないのは恥ずかしいことだと教えないといけないんですよね。それが「できないと言っても許されるって、何」というぐらいにみんなの意識が変わればいいんですけど。

人は自分の過ちを認めるのはしんどいので自分の子育てが間違っていたことを認めないし、それが女性の活躍を妨げているとは思ってはいない。でも困っている女性がいるのに何も考えず何も行動せずに「私は何もしていないし、迷惑をかけていない」というのは、場合によっては害悪なんです。

だから男性の意識だけを変えたらいいというものではなくて、女性自身の責任も問わないといけない時期じゃないかと思います。

一国はあらゆる意思決定機関で女性の割合を2020年までに少なくとも3割程度にしようと取り組んでいます…。

本当は男女同数が望ましいので、3割ってとても控えめですよ。でも3割には意味があって、3割を超えると少数派が多数派の中で認識され、意見が通るようになるんですね。逆に3割までは、意見があることにすら気づいてもらえない。

例えば10人で食事に行って、1人がイタリアン、9人が中華だったら、間違いなく中華。2人でも同じこと。でも3人がイタリアンになったら、「イタリアンに行きたい人もおるのや」みたいな話になってくる。4人になったら、「次はイタリアンにしようか」という案が出てきて、半数になると「別々に行こうか」ということも含めて、選択肢はぐっと増えてくる。

だから3割ないと、その発言は社会の中で全く認識されないということです。すごく雑ないい方ですけど人口の半分を占める女性ですら大事にできない社会が、性的マイノリティや障がい者や難民、そんなもっと少数の人に優しい社会にはなりえないと思うんですよ。

女性の3割が実現されていない社会は、少数派になった瞬間にはじかれる社会。だから自分がターゲットにならないように、みんな黙っている。

一何も言わない、何も考えない現状を変えるために、私たちは何をすべきでしょうか。

他の誰かのしんどさを感じることができるよう、いろんなことに対するアンテナを鍛え直すことだと思うんですよ。そして、できることを探すことだと思います。

そのためには男女共同参画センターみたいなところに行って講座に参加してみる。まず知識を得ることです。自分は知らなかったけど、「世の中にはこんな貧困があるんだ」「DVってこんなことなんだ」、「世界にはこんなことで困っている人がいるんだ」と。その中から、自分に引かかるものがあれば、そこから広がると思います。

そして自分が知識を得たら、人に伝える。話すことで自分がどれだけ理解できたかを知ることにもなります。似たようなことを勉強した人たちの中でサークルとかつくる。そうすることで、自分にできることが見つかっていくんだと思うんです。

白菜一個の値段から、全て政治です。「政治は難しい」と何もしないのではなくて、まずは知ることが大事だと思うんです。知らないものは、議論できませんからね。



ソーレ相談室から

ソーレでは「こころを開く場所」として無料の相談を行っています。日々の生活の中で、トラブルや悩みはつきものです。ソーレ相談室では、相談者自身が一步前に進むことができるように、一緒に考えていきます。一人で抱え込まずに、お気軽にご相談ください。相談内容については秘密を厳守し、匿名での相談も可能です。

次のような相談窓口があります

- 女性対象** 一般相談（随時）
法律相談（予約制・第2・4木曜日）
こころの相談（予約制・第1木曜日）
- 男性対象** 男性相談
（予約制・第1・3火曜日、第4水曜日）

→ 平成27年度には、2,500件近い相談が寄せられました。

夫婦の問題

夫が暴言を吐く。
暴力をふるう。

妻との関係が
ぎくしゃくしている

親権や養育費、
離婚後の生活費について
知りたい

子育ての意見が
合わなくて…

親子の問題

親の言動に
巻き込まれて
しんどい

母親に行動を
制限される

職場の問題

職場の人間関係
に疲れた

上司から
ハラスメントを
受けている

こんなことを話してもいいのだろうか？などと迷わずに、まずご相談ください。

女性対象の一般相談では家族や家庭に関する相談が大変多く、専門相談では法律相談の7割が離婚に関する相談でした。離婚の相談をされる方の中には混乱し、深く傷つき冷静な判断ができない状態になっている場合もあります。

日々の暮らしの中で法律を意識する場面は少ないかもしれませんが、夫婦間にトラブルが起きた時には法的な知識が大変役立ちます。離婚は大きな決断と労力が必要な選択です。だからこそ確かな知識と、気持ちを整理する時間が必要です。

ソーレでは、①法律相談をする時のコツや調停制度②離婚や子どもの問題について、2人の女性弁護士から学ぶ法律講座を1月15日に開催します。

人生を選択するのはあなた自身です。自分の人生を自分で決められるように、いざというときの知識を身に付けましょう。

申込
受付中

女性のための法律講座

法律を知って前向きに生きよう

日時 1月15日(日)

①10:00～12:00 ②13:30～15:30

講師 ①西森やよい(弁護士)②中島香織(弁護士)

対象・定員 女性 30名(先着順)

参加料 1,000円

暮らしにひとさじ エッセンス

「自分の居場所」をつくりたい

本田 真紀さん 合同会社 南国 FOOD PLUS 代表



ソーレの「女性のための起業入門セミナー」や高知県産学官民連携センター（ココブラ）の講座を受講し、今年南国市で起業した本田さんにお話を伺いました。

祖父が経営していたお土産屋の加工所は、いつも近所のおばちゃんたちが集まってわいわいとにぎやかでした。でも突然閉鎖され、それからは「いつか自分も加工所のような場所を作りたい」と思っていました。

きっかけとなったのは、地場産物を商品化する講座の企画担当として、県内外の講師の話を聞くことができる環境で働いたことです。ちょうど県に人材育成とか起業を後押しする流れがあり、子育ても落ち着いたときだったので、「このタイミングをつかみたい」と強く思うようになり、起業に向けて本格的に動き始めました。

家族のために買い物をする機会が多い女性の目線で、無添加で体にいいものを作りたいと思い始めた本田さん。高知県には魅力的な野菜や果物といった素材がたくさんあることから、生では味わえない食感や味、香りを引き出せるドライフルーツを手がけることを決意。家族の協力も得てついに加工食品の会社を設立しました。

初めは支援してくれる人もいないし、誰にも知られていないので不安になることもありましたが、周りを頼って少しずつ協力を得ながら「私ここにあります、こんな商品をつくっています」と商談会などに積極的に参加しました。

また人とのつながりを大事にしたいと思い、苦手なデザインや販売方法などは、講座で知り合い、起業した女性の会社に頼んだりしています。一緒に働いている仲間には小さなお子さんがいるので、無理なく働き続けられるように、製品をきちんと仕上げたら、いつ休んでも、いつ帰っても構わない「来られるときに来てください」という形で働いてもらっています。

「加工所のような自分の居場所を作りたい」という夢を叶えつつある今。これからの夢は、生産者のところへ出向き、材料の個性や長所を引き出し、そこにしかない商品を作るオーダーメイド加工だそうです。

高知県は小規模な事業者が多く、技術力があっておもしろい商品を作っても、求められる商品の量が多すぎると受注できない場合があります。でも仕事を分業して同じ品質のものを一括納品できれば、県外の事業者にも負けない大きな仕事も受注できるようになると思うんです。事業者同士で協力して仕事ができる仕組みを作り、「あそこの会社はおもしろいことやってるよ」と言ってもらえる存在感のある会社になりたいと思っています。



合同会社 南国 FOOD PLUS

〒783-0011 南国市後免町2丁目3-1

☎088-856-6080 駐車場：なし

U R L : <http://www.project-7n59.jp/>

商品詳細や購入はHPのONLINE SHOPで。

講座のご案内

ソーレまつり2017

ソーレでつなぐ 地域のきずな
～どんなときもひとりじゃない～

1/28(土)・29(日) 9:30～16:00

無料

ソーレが開館した1月に開催している、ソーレまつりも今回で18回目。今年もワークショップ、バザー、活動発表など、楽しいイベントが盛りだくさんです！是非ご参加ください♪

記念講演会

1月29日(日)14:00～15:30(13:30開場)

柔道から学んだこと

～強くやさしい社会をめざして～

柔道で現役時代から国際的に活躍してこられた山口香さんに、女子スポーツの歴史や指導者・組織のあり方を通して、自立した生き方や多様な価値観を認め合う社会についてお話していただきます。

講師 山口香(筑波大学大学院 体育系 准教授)

申込 受付中。電話またはホームページにて



企画・展示・イベント

1月28日(土)～29日(日)9:30～16:00

バザー(28日)、ワークショップ、コンサート、活動発表など

- このほかにもさまざまな講座を開催しています。詳しくは、ソーレホームページ・セミナーガイド(10月発行)をご覧ください。
- お申し込み・お問い合わせはお電話でソーレ (088) 873-9100まで



施設利用のご案内



- 貸室利用時間
9:00～21:00
(土・日・月曜日9:00～17:00)
- 休館日
第2水曜日・祝日・(年末年始)12月29日～1月3日
- 図書・情報資料室
9:00～20:00(土・日・月曜日9:00～17:00)
※ただし図書利用カード発行及び再発行の受付は、17:00まで
- 相談室
9:00～12:00、13:00～17:00
(専用電話/088-873-9555)
※第2水曜日、祝日、12月29日～1月3日は休室です

発行

公益財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団 Tel.088-873-9100 Fax.088-873-9292

〒780-0935 高知市旭町3丁目115番地 ホームページ <http://www.sole-kochi.or.jp> ・Eメール sole@sole-kochi.or.jp

発行日

平成29年1月10日

無料

参加費無料です



無料託児付(6カ月～就学前児童・予約制)

女性のためのエンパワメント講座

女性のためのロジカルシンキング ～伝える力を身に付けよう～

日時 2月5日(日)・12日(日)10:00～16:00(全2回)

講師 小林京子(有限会社ヒューリス取締役社長 一般社団法人起業支援ネットワークNICE理事)

参加費 2,000円 ※初回にお支払ください。

対象・定員 女性30名(先着順) 申込 1月7日(土)9:00～電話にて

犯罪被害者支援講演会

託児申込は2月16日(木) 17:00 必着

子どもへの性暴力～その理解と支援～

無料

日時 2月26日(日)13:30～15:00

講師 野坂祐子(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)

会場 高知会館 飛鳥の間(高知市本町5丁目6-42)※会場にご注意ください。

申込 受付中。電話またはホームページにて

主催 認定特定非営利活動法人こうち被害者支援センター、(公財)こうち男女共同参画社会づくり財団

男性応援セミナー

絵本で子育て

「パパとおじいちゃんのための読み聞かせ講座」

日時 3月19日(日)10:00～11:30

講師 花房果子(元高知放送アナウンサー、NPO法人「絵本で子育て」センター絵本講師)

参加費 1組500円 対象・定員 男性保護者と就学前児童15組(先着順)

申込 2月15日(水)9:00～電話にて

☐ ソーレ・メールマガジン 「FROMソーレ」

講座情報を定期的にお届けします。

購読は無料!



登録はこちらから!

規約に同意して登録を選択後、空メールを送ってください。



駐車スペースが少ないため公共交通機関をご利用のうえ、ご来館ください。